

# 平成 29 年度 林野庁 中高層建築物等の担い手育成事業

新たな木材需要創出総合プロジェクト事業のうち  
都市の木質化等に向けた新たな製品・技術の開発・普及に係る課題提案 事業

## 実施報告書

平成 30 年 3 月

一般社団法人 木を活かす建築推進協議会



## 目 次

1. 木造建築物の担い手育成の現状と課題 .....	5
1-1. 事業の目的 .....	5
1-2. 実施体制 .....	5
2. 中大規模木造建築の担い手育成 .....	7
2-1. 概要 .....	7
2-2. 実施内容 .....	7
2-3. 開催概要 .....	8
2-4. 地域リーダー活用の今後に向けて .....	12
3. 木材・木造建築に係る担い手（学生）育成.....	13
3-1. 概要 .....	13
3-2. 木材・木造建築に係る連続講座 .....	14
3-3. 木を活かす学生課題コンペティション .....	43
3-4. 木材・木造建築に係る連続講座 全国発表会 .....	48



# 1. 木造建築物の担い手育成の現状と課題

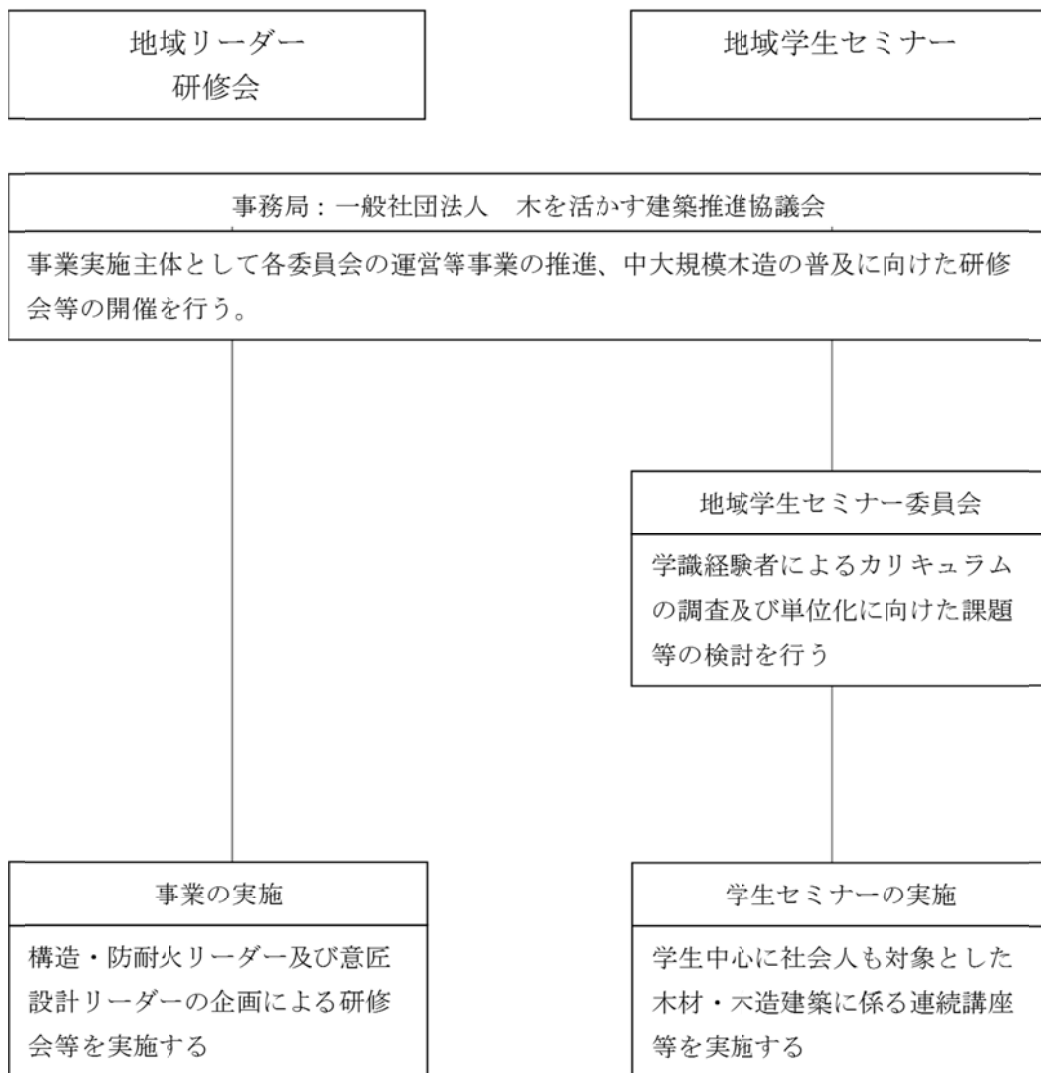
## 1-1. 事業の目的

木材利用の増加を目的として、中高層建築物等に取り組むことができる技術を浸透させるために、当協議会がこれまで育成した中大規模木構造・防耐火設計の地域リーダーの活躍の場を広げることに  
より、地域での木材利用の担い手の増加、中大規模木造に関する地域情報の発信、県下の市町村にア  
ピールすることを目指した。

また高等教育の現場では専門的な学業に専念させることを目的に、余分な単位の取得を制限する大  
学が増えて来ている中、さらに RC 造を中心とした一級建築士受験に必要な教科以外の教育は、困難な  
状況となっている。「建築学」に森林・木材・環境等を含めた学問領域からの視点を組み入れて構築し、  
「森林・木材・建築」の専門領域が連携し、建築系・農学系相互の意見交流の場を持った教育プログ  
ラムの構築を目指した。

## 1-2. 実施体制

本事業の実施体制は次のとおりである。



## (1) 地域学生セミナー委員会

本委員会は木を活かす学生課題コンペティション審査委員会を兼ねている。

### ①委員構成

#### 1) 木材・木造建築に係る連続講座委員会

委員長 飯島 泰男 秋田県立大学 名誉教授  
委員 井上 正文 日本文理大学工学部建築学科 教授  
大橋 好光 東京都市大学工学部建築学科 教授  
山崎真理子 名古屋大学大学院生命農学研究科 准教授  
板垣 直行 秋田県立大学システム科学技術学部 教授  
森 拓郎 広島大学大学院工学研究科 准教授

### ②委員会の開催

本委員会は「木材・木造建築に係る連続講座委員会」として7月3日に1回開催し、「木を活かす学生課題コンペティション審査委員会」として平成30年2月6日に1回開催し、計2回開催した。

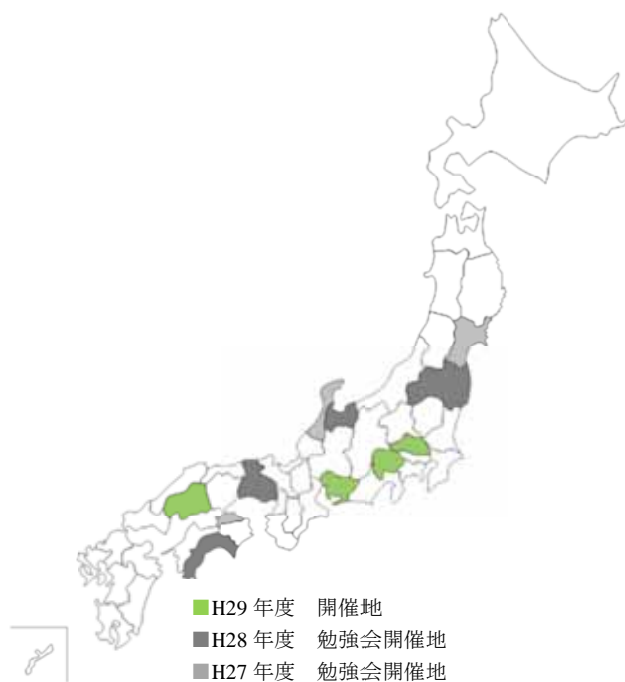
- 1) 平成29年7月3日 第1回木材・木造建築に係る連続講座委員会
- 2) 平成30年2月6日 平成29年度 木を活かす学生課題コンペティション審査委員会

## 2. 中大規模木造建築の担い手育成

### 2-1. 概要

#### (1) これまでの取組み

一般建築業界において、RC造と同様に中大規模木造に取組める構造設計技術を浸透させていくために、木造建築・木材業界・大学・公の産学官が一体となりこれに取組む担い手育成・支援プログラムとして中大規模木造建築物に係る構造・防耐火設計者育成事業を展開した。技術者を対象にした担い手育成・支援では、平成26年度から2カ年にかけて、地域の構造設計をけん引する人材を各都道府県で2名程度育成することを目標に、地域から推薦された技術者を対象とした「中大規模木造建築物構造技術者研修会」を開催した。中大規模木造構造設計リーダー95名、防耐火設計地域リーダー14名を育成した。



#### (2) 本年度の取組み

##### 1) 中大規模木造建築の担い手育成事業

昨年度は、地域における中大規模木造建築物への取組体制の構築のため、これまで育成された地域リーダー（構造・防耐火）から企画を募集したが、今年度（平成29年）は地域から特色のある担い手育成に向けた講習会の申し出に基づき、愛知、広島、埼玉、山梨の4か所で担い手育成講習会を行い、地域の木材関係者や公共団体等との相互の関係強化を目指した。

### 2-2. 実施内容

#### (1) 平成29年度の展開

昨年度（平成28年）に行った兵庫、富山、高知、福島では、今年度、県の林務課が主体となり、地域リーダーを含めて中大規模木造建築の設計者の育成を組織立って行われる見込みとなった。

今年度は地域から申し入れのあった新潟、静岡、愛知、広島、埼玉、山梨の中から実際に特色のある企画を行った4県に絞って行った。企画は、地域の木材関係者や地方公共団体、講習会事業等で講習を受けた実務者の参加だけでなく、広く設計者や工務店、学生等が参加しやすい募集とした。

#### (2) 日程

地域	日程	タイトル	人数
愛知	10月30日	第6回：テクニカルツアー ～Woodism-city technical tour～ 第1回～5回、第7回は、「木材・木造建築に係る連続講座」として開催	69名
広島	12月20日	広島県産材を活かした子育て支援施設木造木質化のための研修会	57名
埼玉	12月20日	H29 中大規模木造建築物設計実習	24名
山梨	平成30年 1月16日	中大規模木造の地域リーダーによる担い手育成フォーラム ー地元木材を利用した「地産地建」の実現に向けてー	48名

## 2-3.開催概要

### (1) 東海地区（愛知）

#### ①目的

東海地域では「都市木造化の連続講座」として7回行ったが、その中の第6回目を見学会や講習会を耐火木造の事例研究として広く一般に公開し、担い手育成講習会として行った。

#### ②参加者・日程・プログラム

69名（学生 34名、一般 25名、他研究者等）の参加者を得た。

#### 1) 第6回：テクニカルツアー ～Woodism-city technical tour～

日 時 平成29年10月30日 9:00～20:00

会 場 大阪木材仲買会館・ぷろぼの福祉ビル

内 容 耐火集成材建築（大阪）、CLT建築（奈良）の視察

講 師 安井昇（桜設計集団一級建築事務所）



講義の様子



見学の様子



活発な討論が行われた様子



耐火集成材の展示

#### ③その他の講習会日程

- 1) 第1回：森のいま ～Forest Now～ 平成29年5月13日 10:00～16:10
- 2) 第2回：木の工学 ～Timber Engineering～ 平成29年6月24日 13:00～17:00
- 3) 第3回：木の科学 ～Wood Science～ 平成29年9月9日 13:00～17:00
- 4) 第4・5回：都市の木質化に向けて ～Going to Woodism～  
平成29年10月28・29日 10:00～17:00
- 5) 第7回：森林・木材・木造の将来 ～Woodism-city in Future～  
平成29年12月2日 10:00～16:00



## (2) 広島県

### ①目的

広島県産材の利用を拡大するためには、住宅分野だけでなく、新たな需要先として見込まれる非住宅分野における中大規模木造建築物の木造木質化が重要である。広島県が実施した「ひろしま木造建築塾」を受講した建築士が中心となり、木材関係者と連携して、中大規模木造建築物の木造木質化プロジェクトの発掘等を目的とした「ひろしま木造協議会」を設立し、協議会が中心となり、地域材を活用した県内の保育施設をモデルに現地研修会等を開催し、木造設計等に係る技術習得を図るとともに、地域材調達に関する情報を共有することにより、県内の中大規模木造建築物の木造木質化の推進を活性化させる。

### ②参加者・日程・プログラム

一般 57 名（建築系 16 名、森林系 9 名、行政 18 名、他 14 名）の参加者を得た。

#### 1) 広島県産材を活かした子育て支援施設木造木質化のための研修会（午前の部）

日 時 平成 29 年 12 月 20 日 10 : 00 ~ 11 : 00

会 場 あんず認定子ども園

内 容 施設設計概要説明、施設内見学、質疑応答

講 師 今川忠男（ひろしま木造建築協議会理事）、浅田茂裕（埼玉大学教育学部教授）



講師による施設概要説明



施設内見学

#### 2) 広島県産材を活かした子育て支援施設木造木質化のための研修会（午後の部）

日 時 平成 29 年 12 月 20 日 13 : 30 ~ 17 : 00

会 場 広島県福山庁舎内会議室・御幸保育園建設現場（福山市御幸町森脇）

内 容 施設設計概要説明、施設内見学、質疑応答

講 師 今川忠男（ひろしま木造建築協議会理事）、浅田茂裕（埼玉大学教育学部教授）



講演の様子



建設現場見学

### (3) 埼玉県

#### ①目的

「中大規模木造設計セミナーテキスト」の内容の理解を深めるため、設計技術者（意匠、構造）とプレカット事業者を対象に、具体的な課題を設定し、地域で生産可能な木材を使用した中大規模木造建築物の設計実習を行う。

実施にあたっては、設計者（意匠+構造）とプレカット技術者、木材関係者でチームを組む。

#### ②参加者・日程・プログラム

一般 23 名（建築系 17 名、森林系 6 名）の参加者を得た。

#### 1) H29 中大規模木造建築物設計実習

日 時 平成 29 年 12 月 20 日 10:00～16:50

会 場 埼玉会館 4A 会議室

内 容

- ・地域で調達可能な木材について（埼玉県内のプレカット CAD 技術者からの報告）
- ・防耐火計画実習 実習課題「保育園」

木をあらわしで使用するための防耐火計画（別棟解釈、防耐火区画、内装制限、準耐火建築物等）の講習を行い、それをもとに各字でゾーニングや防耐火計画を検討した後、グループで防耐火計画をまとめた。

講 師

稲山正弘（東京大学大学院教授）



地域の木造生産体制の説明 1



地域の木造生産体制の説明 2



実習の様子 1



実習の様子 2

#### (4) 山梨県

##### ①目的

「地産地建」の実現に向けて、未だ地域材利用の手法や取組体制が構築されていない地域（市町村）に向けて市町村の関係者を交えて、中大規模木造建築物の取組体制の構築と、木材関係者や施工者への教育・指導を目的として行った。

##### ②参加者・日程・プログラム

一般 40 名（建築系 15 名、森林系 9 名、行政 16 名）の参加者を得た。

##### 1) 中大規模木造の地域リーダーによる担い手育成フォーラムー地元木材を利用した「地産地建」の実現に向けてー

日 時 平成 30 年 1 月 16 日 13:00～17:00

会 場 山梨県立図書館 2 階 多目的ホール

内容及び発表者

- ・「地域材を活用した公共建築物の整備 ～我が国の豊富な森林資源を活かすために～」  
宮脇 慈（林野庁林政部木材利用課）
- ・「設計者から見た やまなし県産材の概要」名取 政明（N 設計アトリエ）
- ・「韮崎市すずらん保育園の建設にあたり・・・」兵井 昌樹（韮崎市建設課）
- ・「パネルディスカッション」加来 照彦（株式会社現代計画研究所）、宮脇 慈（林野庁林政部木材利用課）、秋山 貢（富士川町議会）、兵井 昌樹（韮崎市建設課）、細川 進（細川構造設計室）、溝呂木 克人（株式会社溝呂木構造設計室）、遠藤 千春（株式会社 Vent 計画設計室）



事例発表の様子 1



事例発表の様子 2



パネルディスカッションの様子 1



パネルディスカッションの様子 2



## 2-4. 地域リーダー活用の今後に向けて

地域の中大規模木造建築の担い手育成の取組みについて、各地域の報告より課題及び成果を抜粋し要約した。

### (1) 地域リーダー活用の課題

- ①愛知：学生の参加者について、現状の大学カリキュラム、就職活動などを含む学生自身の多忙さなどを越えて、このような教育プログラムへの参加者が増加するよう、学生たちの需要に即したプログラムを検討する必要がある。
- ②広島：見学について、「工事中の視察だったため、全体のイメージが出来なかった」などの意見や、「中大規模木造建築物について、具体的な構造や調達の計画方法、人体へのデメリットやメリット、木材の基本的な話や問い合わせの機会を増やしてほしい」などの意見があった。
- ③埼玉：「もっと基本からの説明がほしい」、「演習の時間が短いので事前に検討したい」、「複数回での詳細な講習を行ってほしい」などの要望や、在来工法（民家づくり）、様々な用途の防耐火、構造設計の違いなどを確認する講習の開催の要望が挙がった。

### (2) 取組みの成果

- ①愛知：農学系、建築学系、都市デザインなどさまざまな立場から問題点やアイデアを他分野の参加者と共有し議論することで、体系的な理解が深まった。また、実習により、講義で学んだ知識の理解を深め、韓国の学生との交流や世界の木材利用に目を向けることで、日本の木造建築界の成長や木材のマテリアル利用推進の手がかりとなるような刺激をうけることができた。
- ②広島：実際に、木造建築を訪れ使用者（園長先生）の話を聞いたり、木材の効能を数値やグラフを使って客観的な説明行うことで木材そのものの話だけでなく、子供の居場所を作るなど生活の中でのイメージが膨らみやすい効果的な講習会を開催することが出来た。「今後も研修や視察に参加したい」という意見もあり、研修会について前向きな意見が多くあがった。
- ③埼玉：「実習のように初期の計画段階から、意匠、構造設計者が基本プランを計画し、実施段階でプレカットメーカーと話し合いを持つことが、特に中大規模木造では大事だと思われる」、「計画段階から意匠、プレカット、構造で意見交換する設計はこれまでなかったので実務でも非常に参考になった」などの意見があり、実務に有益かつ必要な内容の講習であったとの評価を得た。

### 3. 木材・木造建築に係る担い手（学生）育成

#### 3-1.概要

##### (1) これまでの取組み

平成 22 年度「木のまち・木のいえ担い手育成拠点事業」への木材学会による提案された考え方を基本に、平成 25 年度までの初期 3 年間で、東北・首都圏・北陸・東海・近畿・九州の 6 つの地域で大学間の関係を形成した。この関係を母体とし、木材・木造建築に興味を持つ学生を増やすため、平成 25 年度より、「木材・木造建築に係る連続講座」を実施している。

平成 26 年度からは大学、大学院、専修学校、高等専門学校、高等学校、高等技術専門学校等の学生を対象に建築材料としての木材・木質材料、構造形式の 1 つとしての木造に興味を持って学ぶきっかけとなることを目的として、「木を活かす学生課題コンペティション」を開催している。



##### (各地域のネットワーク)

地域（幹事名）	これまでの参加大学	本年度の開催
北海道地区ネットワーク （北海学園大 植松）	北海学園大学、北海道大学、北海道科学大学、室蘭工業大学	○
東北地区ネットワーク （秋田県立大 板垣）	秋田県立大学、岩手大学、岩手県立大学、東北大学、東北学院大学、東北工業大学、日本大学（郡山）、八戸工業大学、	○
関東（首都圏）地区 ネットワーク （東京都市大 大橋）	秋田県立大学、足利工業大学、関東学院大学、工学院大学、芝浦工業大学、昭和女子大学、職業能力開発総合大学校、東海大学、東京工芸大学、東京都市大学、東京理科大学、電気大学、日本大学、明星大学	○
東海地区ネットワーク （名古屋大 山崎）	愛知産業大学、岐阜県立森林アカデミー、岐阜工業高等専門学校、静岡大学、名古屋大学、名古屋工業大学、三重大学	※リーダー研修会と共通
北陸地域ネットワーク （金沢工大 後藤）	金沢工業大学、信州大学、富山大学、福井大学	—
近畿地区ネットワーク （京都府立大学 田淵）	京都大学、京都工芸繊維大学、京都美術工芸大学、京都府立大学、近畿大学、関西大学、奈良女子大学	○
中国地区ネットワーク （広島大学 森）	秋田県立大学、近畿大学、島根大学、広島大学、広島工業大学	○ 【新規】
九州地区ネットワーク （日本文理大 井上）	秋田県立大学、大分大学、鹿児島大学、九州大学、九州産業大学、九州職業能力開発大学校、熊本県立大学、佐賀大学、福岡大学、日本大学、日本文理大学	○

### 3-2.木材・木造建築に係る連続講座

#### (1) 概要

木材・木造建築に係る連続講座は、昨年度の北海道、関東、近畿地区に加え、大学アンケートでも参加意向が強かった東北、東海、中国、九州の6地域で開催した。本年度から、中国地区のネットワークによる取組みを開始した。東海地区の「都市の木質化講座 2017（連続7回）」は地域リーダーの取組みを兼ねている。

本年度は、地域リーダーと連携し、行政や民間事業者など一般参加しやすい形式を目指した。伐採現場や製材工場、木造建築実例などの見学、木材加工や組み立て等の体験、座学やグループディスカッション、課題制作等を通じて「木」の建築・空間の魅力を発見していくプログラムを目指した。

連続講座の内容は、平成29年7月3日開催の「木材・木造建築に係る連続講座委員会」において検討した。以下は事業の日程である。

地域	日程	タイトル・テーマ等	形式	受講者数
北海道	10月21～22日	・森を知り、木を知り、建築に生かす 2017：オホーツク編	講義 見学	17名
東北	8月21～27日 12月22～23日	・第1部「木の活用方法と木を活用した創作の実践」 ・第2部「木の活用と木造建築の可能性」	講義 実習 見学	91名 うち一般 15名
関東	10月28日 11月25日 12月16日 1月5日、1月6日	・建築学生のための木材・木造建築 連続講座	講義 見学	29名
東海	5月13日 6月24日 9月9日 10月28～29日 12月12日	・「都市木造化の連続講座」 ・日本の森林と都市の持続的調和 ※東海地域では上記講座を7回行ったが、10月30日の第6回目を担い手育成講習会として行った。	講義 実習 見学	40名
近畿	11月25日 12月2日 12月16～17日	・木材、木造建築に関する基礎的な「知識」「体験」「技術」までの流れを学ぶ。	講義 実習 見学	25名 うち一般 2名
中国	11月3～5日	・木材、木質建築の職域において高度化が予想される中大規模木造建築の実務にふさわしい担い手を育成する。	講義 実習 見学	13名 うち一般 2名
九州	12月16・17日	・森林から建築までの一貫した木材利用への理解 ・多様性を帯びてきた木造建築全体への理解 ・木造を目指す学生同士の交流の場	講義 見学	56名

## (2) 実施概要

### ①北海道地区ネットワーク

#### 1) 実施体制

幹事：	植松 武是	北海学園大学
講師：	石原 亘	北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場
	石川 茂雄	美幌町森林組合
	野尻 拓己	留辺蘂木工株式会社
	宮城 正弘	北海道日建設計株式会社
	長谷川圭一	株式会社竹中工務店
	横山 勝人	三九建設株式会社
引率：	足立 裕介	北海学園大学
	澤田 圭	北海道大学

事務局：	櫻井 一也	一般社団法人木を活かす建築推進協議会
	林 幸範	北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場
	大橋 義徳	北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場
	高梨 隆也	北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場
	富高 亮介	北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場
	村上 了	北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場
	齋藤沙弥佳	北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場

#### 2) 目的

建築分野における北海道の森林資源の積極的、かつ、適切で速やかな活用を推進することを目的とし、建築分野の将来を担う学生を対象として、北海道の森林資源・造林・育林の現状と課題、木材加工技術の現状と課題、建築分野での活用技術の現状と課題を、体系的に学び、考えることが出来る技術講習会を実施する。北海道の面積と森林面積はいずれも日本の22%を占めており、道内の地域と季節によって森林施業の内容等も異なっている。また、加工工場も札幌圏から離れた地域に点在していることから、「地域の技術者による地域の木造建築物の建設」の具現化に向けて「北海道の中の地域性」も学ぶ。

#### 3) 参加者・日程・プログラム

本年度の学部4年生を中心に17名の受講者を得た。開催日程及びプログラムは次のとおりである。

#### ○【車内研修】

場 所 北見市北見駅 - 美幌町森林組合間移動バス内、  
美幌町森林組合 - 訓子府町 わくわく園間移動バス内

日 時 平成29年10月21日 11:40~12:10

内容：「日本の中の北海道の中のオホーツク」石原 亘（林産試験場 技術部 研究職員）





車内研修



車内研修

○【見学】

場 所 美幌町 美幌町森林組合 製材工場、民有林 伐採・造材現場

日 時 平成 29 年 10 月 21 日 12 : 10~12 : 40、13 : 00~13 : 50

内容 : 「オホーツク林業の造材技術と位置づけ」 石川 茂雄 (美幌町森林組合 代表理事専務)  
 「北海道の伐採・造材技術」 石川 茂雄 (美幌町森林組合 代表理事専務)



製材工場の見学



作業現場の見学

○【見学】

場 所 訓子府町 訓子府幼保連携型認定こども園 わくわく園

日 時 平成 29 年 10 月 21 日 14 : 50~15 : 25

内容 : 「道産木材の活用方法 : その 1」

松本みさ子 (訓子府幼保連携型認定こども園 わくわく園 副園長)



わくわく園の見学

○【講義・見学】

場 所 北見市留辺薬町 協同組合 オホーツクウッドピア

日 時 平成 29 年 10 月 21 日 15：50~16：50

内容：「道産カラマツを用いた構造用集成材と CLT の製造と利用」

塚谷 重之（協同組合 オホーツクウッドピア 業務部長）



道産カラマツ CLT 建築事例の講義



工場の見学

○【講義】

場 所 北見市 自然休養村センター

日 時 平成 29 年 10 月 21 日 19：00~19：30、19：30~20：00、20：00~20：30、20：30~21：00

内容：「オホーツク東部地域の林業」石川 茂雄（美幌町森林組合 代表理事専務）

「北見の林産業 -循環型社会の形成に向かって中山間地域での取り組み-」

野尻 拓己（留辺薬木工株式会社 取締役社長）

「北見近郊の木造・木質建築物」宮城 正弘（株式会社北海道日建設計 構造設計室）

「なぜ今、大手企業が木質活用に取り組んでいるのか」

長谷川 圭一（株式会社竹中工務店 北海道支店 品質管理部長）



講義の様子



講義の様子

○【意見交換】

場 所 北見市 自然休養村センター

日 時 平成 29 年 10 月 21 日 21：00~22：10

内容：取り組んでいる課題・取り組んでみたい課題紹介と意見交換



課題紹介の様子



課題紹介の様子

○【見学】

場 所 北見市 留辺蘂町 第2 東町団地市営住宅（木造団地）、留辺蘂小学校、北の大地の水族館  
「山の水族館」

日 時 平成 29 年 10 月 22 日 10：00~10：20、10：30~11：10、11：30~12：10

内容：「北見市留辺蘂町内で建築中の木造物件：その1、その2」、

横山 勝人（三九建設株式会社 取締役専務）

「道産木材の活用方法：その2」



木造平屋の見学



小学校の設計コンセプトの説明



小学校の建設現場の見学



木造水族館の見学

## ②東北地区ネットワーク

### 1) 実施体制

幹事：	板垣 直行	秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科
講師：	山口 邦雄	秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科
	前田 匡樹	東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻
	崎山 俊雄	日本大学工学部建築学科
	江田 紳輔	株式会社 関・空間設計
	斎藤 拓也	株式会社 関・空間設計
	菅井 幸徳	株式会社 菅幸材木店一級建築士事務所

事務局：	内田 信平	岩手県立大学盛岡短期大学部生活科学科
	前田 匡樹	東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻
	大沼 正寛	東北工業大学ライフデザイン学部安全安心生活デザイン学科
	崎山 俊雄	東北学院大学工学部環境建設工学科
	浦部 智義	日本大学工学部建築学科

### 2) 目的

- ・木材、木造建築の特性を実務に近い視点から学修する。
- ・木を活用した製作活動を通じて、ものづくりの面白さ、木を活用することの効果を実体験する。
- ・近年の資源・環境問題を認識し、木を活用する社会的な意義を理解する。
- ・上記を修得した木材産業、木造建築産業の担い手を育成する。
- ・今年度は特に“公共空間での木の活用”をテーマとしたプログラムとする。

### 3) 参加者・日程・プログラム

第1部の受講者は学部1～3年生の57名、第2部は、学部2～4年生、修士1年の学生19名、実務者や行政など一般参加者は15名の計34名、合計で91名の受講者を得た。

第1部は、昨年と同様東北地区の建築系学生が集って開催している“木によるものづくり活動”「角館木匠塾サマースクール」とタイアップして実施した。

開催日程及びプログラムは次のとおりである。

〈第1部 平成29年8月21日～21日〉

#### ○【講義】

場 所 秋田県仙北市角館町 花葉館

日 時 平成29年8月21日

内容：「セミナーガイダンス」板垣 直行（秋田県立大学）

森林資源、地球環境問題などから木材を活用する意義や、それを活用した木造建築をつくる担い手を育成する必要性についての説明を行った。



開塾式



セミナーガイダンス

○【実習】

場 所 秋田県仙北市角館町西長野古米沢 30-19 花葉館

日 時 平成 29 年 8 月 22 日

内容：「木造加工技術の実践」 (伊藤建友株式会社)



鑿の実演



鑿使いの指導

○【見学・講義】

場 所 秋田県仙北市角館町、門脇木材株式会社協和工場、花葉館

日 時 平成 29 年 8 月 24 日

内容：「製材・チップ工場見学」 (株式会社門脇木材・協和工場)

「地域の街並みと木の活用」 山口 邦雄 (秋田県立大学)



工場の見学



講義の様子

○【実習】

場 所 秋田県仙北市角館町西長野古米沢 30-19 花葉館

日 時 平成 29 年 8 月 21～27 日

内容：「表彰ステージ製作活動」



基礎の設置作業



組立作業



角の面取り



製作物説明

〈第2部 平成29年12月22日～23日〉

○【講義・見学】

場 所 宮城県仙台市 オーエンス泉岳自然ふれあい館

日 時 平成29年12月22日 14:00～14:30、14:30～15:15

内容：「オーエンス泉岳自然ふれあい館の設計について」斎藤 拓也（株式会社 関・空間設計）  
「オーエンス泉岳自然ふれあい館 見学」



講義の様子



見学の様子

○【講義】

場 所 宮城県仙台市 オーエンス泉岳自然ふれあい館

日 時 平成29年12月22日 15:30～16:30、18:30～19:30

内容：「木を活用した公共建築の設計と課題」江田 紳輔（株式会社 関・空間設計）  
「公共空間における木の活用技術と課題」板垣 直行（秋田県立大学）



講義の様子



講義の様子

○【講義・見学】

場 所 宮城県仙台市 東北大学

日 時 平成29年12月23日 10:15～11:15、11:15～12:00

内容：「CLTを活用した新たな木造建築の構造」  
前田 匡樹（東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻）  
「CLTモデル施設「東北大学セミナールーム」見学」



講義の様子



CLT モデル施設実証棟見学の様子

○【講義】

場 所 宮城県仙台市 東北大学

日 時 平成 29 年 12 月 23 日 13：00～14：00、14：00～15：00、15：00～15：45

内容：「木造文化財建造物の保存と活用」 崎山 俊雄（日本大学工学部建築学科）

「文化財の耐震補強等に関する構造設計」

菅井 幸徳（株式会社 菅幸材木店一級建築士事務所）

「ディスカッション：木を活用した公共空間の可能性」



講義の様子



ディスカッションの様子



### ③関東地区ネットワーク

#### 1) 実施体制

幹事：	大橋 好光	東京都市大学 教授
講師：	中山 榮子	昭和女子大学 教授
	鎌田 貴久	日本大学 助教授
	杉本 洋文	東海大学 教授
	堀場 弘	東京都市大学 教授
	松留慎一郎	職業能力開発総合大学校
	堀江 亨	日本大学 教授
	神戸 渡	関東学院大学 教授
	松井 郁夫	松井郁夫建築設計

事務局：	伊藤 耀	東京都市大学 大橋研究室
	井田 光城	東京都市大学 大橋研究室
	花上 真	東京都市大学 大橋研究室
	河野 淳	工学院大学 後藤研究室
	山村 暢	工学院大学 後藤研究室

#### 2) 目的

現在、大学の授業では、木造建築に関するものは少ない。一般に、建築構法・建築構造等の授業で4回程度である。多くの大学では、学内に木質構造の専門の教員がおらず、学びたくても学べない学生も少なくない。また、授業は一般に講義のみで、実習のある大学はわずかである。その結果、いずれの大学でも、十分な木造教育ができないのが現状である。

本プロジェクトは、そうした状況を変えるモデル的な位置づけと考えている。木造を志す学生は、必ずしも多くないことから、1つの大学内にとらわれず、複数の大学の建築系学生が学べる場を設けることを提案する。そうすることで、木造に集中して、かつ実習などを組み込んだ授業を構成することができる。そうした拠点校の、関東地区のモデルとして本提案を行う。

#### 3) 参加者・日程・プログラム

学部3年生を中心に、学部4年、修士1年、卒業生を含め29名の受講者を得た。開催日程及びプログラムは次のとおりである。

#### ○【講義】1・2回目

場 所 東京都市大学 渋谷サテライトクラス

日 時 平成29年10月28日 13:30~15:00、15:15~16:45

内容：「木材入門」中山 榮子（昭和女子大学／教授）

「木質材料と木質構造」鎌田 貴久（日本大学/助教授）



中山氏講義



鎌田氏講義

○【見学】3回目

場 所 小田原

日 時 平成 29 年 11 月 25 日 10 : 00~17 : 30

内容 : 「小田原の木づかいを知る」 ~木なりわいと木造建築~

杉本 洋文 (東海大学/教授)



どんぐりハウス見学



貯木場見学

○【講義】4・5回目

場 所 東京都市大学 渋谷サテライトクラス

日 時 平成 29 年 12 月 16 日 13 : 30~15 : 00、15 : 15~16 : 45

内容 : 「公共木造建築の設計」堀場 弘 (東京都市大学/教授)

「日本における中大規模木造建築とその技術」

松留 慎一郎 (職業能力開発総合大学校/名誉教授)



堀場氏講義



松留氏講義

○【見学】6回目

場 所 江戸東京たてもの園

日 時 平成30年1月5日 14:00~16:30

内容:「木造建築を見る」「江戸東京たてもの園」津和 佑子(文化財建造物保存技術協会)



見学の様子



見学の様子

○【講義】7~9回目

場 所 大学セミナーハウス

日 時 平成30年1月6日 9:30~10:30、10:45~12:15、13:30~15:00

内容:「触ってわかる耐力壁のはたらき」

神戸 渡(関東学院大学/教授)

「木造住宅の架構のいろいろ」

堀江 亨(日本大学/教授)

「木組みの家づくり」

松井 郁夫(松井郁夫建築設計)



神戸氏講義



堀江氏講義



松井氏講義

#### ④東海地区ネットワーク

##### 1) 実施体制

幹事：	山崎真理子	名古屋大学大学院生命農学研究科
講師：	山田 政和	豊田森林組合
	西川 早人	旭木の駅 PJ
	川合 晃司	豊田市
	赤川 裕亮	豊田市
	近藤 稔	名古屋大学生命農学研究科
	山本一清	名古屋大学生命農学研究科
	山崎真理子	名古屋大学大学院生命農学研究科
	佐々木康寿	名古屋大学生命農学研究科
	網野 禎昭	法政大学
	キチヨエル・バエ	Innovative Design Studio Inc. Ids
	安井 昇	桜設計集団一級建築事務所

事務局：	山崎真理子	名古屋大学大学院生命農学研究科
	佐々木康寿	名古屋大学大学院生命農学研究科
	小島瑛里奈	名古屋大学大学院生命農学研究科

##### 2) 目的

中大規模建築物を含む木造建築界の発展を担う人材の育成を目的とし、7回にわたる連続講座を開催した。連続講座では、「日本の森林と都市の持続的調和」と題し、森林・材料・建築分野において木材利用の意義を理解し利用の促進を図る人材の育成に向けて、これからのあり方について考えるべき視点を論じた。具体的には木材生産地である森林の管理と施業、木材の科学（木材強度や物質的性質）、外国（欧州および韓国）での木造建築の現状、防耐火設計、都市の木質化に向けたプランと環境評価といった内容を講義した。また、実習（演習および実地研修）、特に、日本の最新の木造建築物への視察などを取り入れることで、受講生の理解度の向上と技術の定着を図った。

##### 3) 参加者・日程・プログラム

学生 40 名（建築デザイン系 33 名、農学系 7 名）で合計で 40 名の参加者を得た。

東海地域では「都市木造化の連続講座」として 7 回行ったが、その中の第 6 回目を見学会や講習会を耐火木造の事例研究として広く一般に公開し、担い手育成講習会として行った。

##### ○第 1 回：森のいま ～Forest Now～

日 時 平成 29 年 5 月 13 日 10 : 00～16 : 10  
会 場 豊田森林組合および周辺の森林  
内 容

- ・座学 森林の管理と施業、森林・林業・林学の重要性・現状と将来
- ・実習 樹木調査

講 師

山田政和（豊田森林組合）、西川早人（旭木の駅PJ）、川合晃司（豊田市）、赤川裕亮（豊田市）  
近藤稔（名古屋大学生命農学研究科）、山本一清（名古屋大学生命農学研究科）



座学会場様子



質疑応答

○第2回：木の工学 ～Timber Engineerig～

日 時 平成29年6月24日 13:00～17:00

会 場 名古屋大学農学部 第2講義室、構造実験室

内 容 : 括弧内説明

- ・座学 木材の機械的性質・ヤング係数はなぜ重要か・製材の性能測定・グレーディング
- ・実験：製材の曲げヤング係数の測定と破壊実験

講 師

山崎真理子（名古屋大学生命農学研究科）、佐々木康寿（名古屋大学生命農学研究科）

○第3回：木の科学 ～Wood Science～

日 時 平成29年9月9日 13:00～17:00

会 場 名古屋大学農学部 第2講義室、大学構内ウッドデッキ

内 容

- ・座学：木材の物理的性質・水分・乾燥・変形
- ・実験：木材の表面割れ・反り、集成材の設計ほか

講 師

山崎真理子（名古屋大学生命農学研究科）、佐々木康寿（名古屋大学生命農学研究科）

○第4・5回：都市の木質化に向けて ～Going to Woodism～

日 時 平成29年10月28日・29日 10:00～17:00

会 場 ポートメッセなごや

内 容

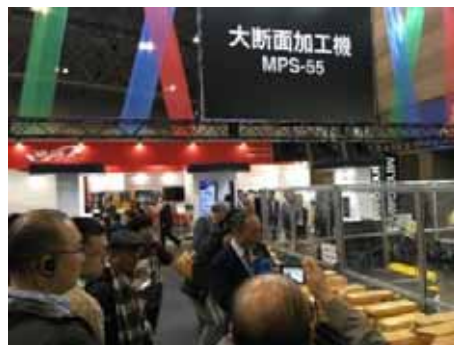
- ・欧州の木造建築、韓国の動向、防耐火設計（講演）、最先端の木材加工・プレカット（日本木工機械展の視察）

講 師

網野禎昭（法政大学）、キチヨエル・バエ（Innovative Design Studio Inc. Ids）、安井昇（桜設計  
集団一級建築事務所）



開会の挨拶



木工機械展展示ブース視察の様子

○第6回：テクニカルツアー ～Woodism-city technical tour～

※担い手育成講習会として開催した。

日 時 平成29年10月30日 9:00～20:00

会 場 大阪木材仲買会館・ぷろぼの福祉ビル

内 容

- ・耐火集成材建築（大阪）、CLT 建築（奈良）の視察

講 師

安井昇（桜設計集団一級建築事務所）

○第7回：森林・木材・木造の将来 ～Woodism-city in Future～

日 時 平成29年12月2日 10:00～16:00

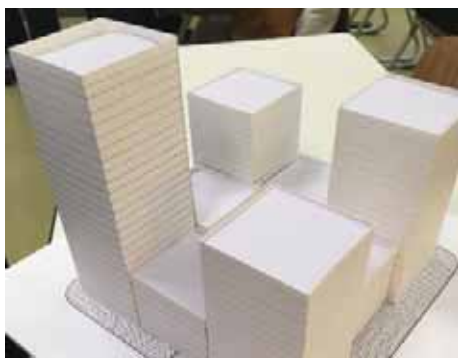
会 場 名古屋大学農学部 第2講義室

内 容

- ・地域産材の利用促進に向けた将来展望のグループ討議、都市の木質化に向けたプラン作成と環境評価

講 師

山崎真理子（名古屋大学生命農学研究科）、佐々木康寿（名古屋大学生命農学研究科）



作製模型



発表の様子

## ⑤近畿地区ネットワーク

### 1) 実施体制

幹事：	田淵 敦士	京都府立大学
講師：	伊藤 貴文	京都府立大学
	瀧野 敦夫	奈良女子大学
	田淵 敦士	京都府立大学
	奥田 辰雄	木四郎建築設計室
	村田 功二	京都大学
	築瀬 佳之	京都大学
	神代 圭輔	京都府立大学
	下津 健太朗	和歌山県文化財センター

事務局：	瀧野 敦夫	奈良女子大学
	村田 功二	京都大学
	築瀬 佳之	京都大学

### 2) 目的

木材および木造建築に関する基礎的な「知識」を学び、それを「体験」と結びつけ、「技術」までのプロセスと流れを学ぶことを目的とする。また、建築と林産のそれぞれの将来を担う学生間の交流を通じて、木材利用を活性化するネットワークづくりをうながす。

- ・木質材料の製造と物性
- ・木材の腐朽の原因と対策
- ・地域材利用の課題と方策
- ・構造力学と部材強度
- ・耐火と防火
- ・公共木造建築における行政の役割

### 3) 参加者・日程・プログラム

学生 23 名、一般参加者は 2 名の合計で 25 名の受講者を得た。

開催日程及びプログラムは次のとおりである。

#### ○【講義・実習】第 1 回目

場 所 奈良女子大学

日 時 平成 29 年 11 月 25 日

内容：「わが国の林業・木材産業の現状と近年の動き」伊藤貴文（京都府立大学）

「木構造の力学的原理」瀧野敦夫（奈良女子大学）

「木造トラスの載荷実験」瀧野敦夫（奈良女子大学）



講義の様子



スギ板の加工



トラスの作成



載荷実験

○【講義・実習】第2回目

場 所 京都市まちづくりセンターおよび眼科外科医療器具博物館

日 時 平成 29 年 12 月 2 日

内容：「伝統木造住宅の特徴と実測方法」田淵敦士（京都府立大学）

「伝統木造住宅の実測実習」奥田辰雄（木四郎建築設計室）、田淵敦士



実測の様子 1



実測の様子 2



○【講義】第3回目

日 時 平成 29 年 12 月 16 日

内容：「木材の物性と木質材料の開発」村田功二（京都大学）

「木材の物性について知っておいて欲しいこと」神代圭輔（京都府立大学）



講義の様子 1



講義の様子 2

○【見学】第3回目

場 所 朝日ウッドテックショールーム、山長商店

日 時 平成 29 年 12 月 16 日

内容：「朝日ウッドテックショールーム 見学」、「山長商店 見学」



朝日ウッドテックショールーム見学



山長商店 見学

○【講義】第3回目

日 時 平成 29 年 12 月 17 日

内容：「木材の耐久性とその試験方法」築瀬佳之（京都大学）



講義の様子 1



講義の様子 2

○【見学】第3回目

場 所 京都大学シロアリ試験地（和歌山県美浜町煙樹ヶ浜）、湯浅伝統的建造物群保存地区見学

日 時 平成 29 年 12 月 17 日

内容：「京都大学シロアリ試験地 見学」築瀬佳之（京都大学）

「湯浅伝統的建造物群保存地区見学」下津健太郎（和歌山県文化財センター）



シロアリ試験地の見学



伝建地区の見学

## ⑥中国地区ネットワーク

### 1) 実施体制

幹事：	森 拓郎	広島大学工学部
講師：	飯島 泰男	秋田県立大学名誉教授
	松本 慎也	近畿大学工学部
	藤田 和彦	広島県立総合技術研究所
	後藤 崇志	島根県中山間地域研究センター
	山根 宏之	島根県中山間地域研究センター
	村上 裕作	島根県中山間地域研究センター
	河村 進	島根県産業技術センター
	川上 善嗣	広島工業大学工学部
	岡本 滋史	島根大学理工学部
	木村 彰孝	広島大学教育学部
	森 拓郎	広島大学工学部

事務局：森 拓郎 広島大学工学部

### 2) 目的

今後、木材・木造建築の職域において、高度化が予想される中大規模木造建築の実務にふさわしい担い手を育成することを主目的として、特に木材・木質構造建築物の担い手である学生に、木材、木質構造に興味を持ち、進んで勉強してもらえる場所を提供する。また、普段の学習では手に入れることが困難である森林から、木材、木質材料、そして木質構造までの多くに触れる機会を提供し、より高度な学習を促す場とする。

### 3) 参加者・日程・プログラム

学生 11 名、一般参加者は 2 名の合計で 13 名の受講者を得た。

開催日程及びプログラムは次のとおりである。

○【講義・実習】第1回目

場 所 島根県中山間地域研究センター及び宿泊施設

日 時 平成 29 年 11 月 3 日 13:00～

内容：「木力検定」森 拓郎（広島大学工学部）

「日本の森林について」藤田和彦（広島県立総合技術研究所）



木力検定の解説



講義の様子

○【講義・実習】第1回目

場 所 島根県中山間地域研究センター及び宿泊施設

日 時 平成 29 年 11 月 3 日 15:00～

内容：「木材と木質材料および木材強度実験のデータ整理」森 拓郎（広島大学工学部）

「木材の曲げ実験（スギ・ヒノキ・アカマツ）」

後藤 崇志、山根 宏之、村上 裕作（島根県中山間地域研究センター）、河村 進（島根県産業技術センター）、川上 善嗣（広島工業大学工学部）



実測の様子



計算の様子

○【講義・実習】第2回目

場 所 島根県中山間地域研究センター及び宿泊施設

日 時 平成 29 年 11 月 4 日 9:00～

内容：「木材の耐久性、木質構造の可能性」森 拓郎（広島大学工学部）

「木質構造の設計あれこれ」岡本滋史（島根大学理工学部）



森氏の講義



岡本氏の講義

○【実習】第2回目

場 所 島根県中山間地域研究センター及び宿泊施設

日 時 平成29年11月4日 12:15～

内容：「木材で作る構造物」松本慎也（近畿大学工学部）



松本氏の説明



作業の様子

○【講義・実習】第2回目

場 所 島根県中山間地域研究センター及び宿泊施設

日 時 平成29年11月4日 16:30～

内容：「木材の生理的な影響」木村彰孝（広島大学教育学部）



講義の様子



実習の様子

○【実習】第3回目

場 所 島根県中山間地域研究センター及び宿泊施設

日 時 平成29年11月5日 9:00～

内容：「木材で作る構造物 実験とプレゼン」松本慎也（近畿大学工学部）



講義の様子



講評の様子

○【実習】第3回目

場 所 トレッタみよし

日 時 平成29年11月5日 12:00～

内容：「トレッタみよし（広島県三次市） 見学」



見学の様子

## ⑦九州地区ネットワーク

### 1) 実施体制

幹事： 井上 正文 日本文理大学  
講師： 鎌田 貴久 日本大学  
井上 正文 日本文理大学

事務局： 飯島 泰男 秋田県立大学 名誉教授  
井上 正文 大分大学 教授  
北原 昭男 熊本県立大学 教授  
藤本 登留 九州大学 准教授  
末廣 香織 九州大学 准教授  
田中 圭 大分大学 准教授  
久保 佳矢 九州職業能力開発大学校 講師  
四ヶ所高志 福岡大学 助教  
西野雄一郎 福岡大学 助教  
松野尾仁美 九州産業大学 助教  
三浦 逸朗 ミウラクワノパートナーシップ (有)  
櫻井 一也 木を活かす建築推進協議会

### 2) 目的

座学だけでは、十分に理解できない、身につかない森林伐採現場から木造建築までの流れを現場見学や現場体験を通じて学ぶ。大学生・院生に、この体験を通じて、将来の木造担い手へのモチベーションを上げてもらう企画とする。森林から木造建築までの教育素材をすべて湯布院地域で完結させ、湯布院地域を学びのフィールドとして活用する。

### 3) 参加者・日程・プログラム

学生 56 名の受講者を得た。

開催日程及びプログラムは次のとおりである。

○【見学・講義】

場 所 大分県由布市

日 時 平成 29 年 12 月 16 日 13 : 00 ~

内容 : 森林見学 (九州林産所有の湯布院地域の森林)

「森林から木造建築まで」(鎌田貴久氏 日本大学 専任講師)



森林見学



講義の様子

○【その他】

場 所 大分県由布市 日本文理大学湯布院研修所

日 時 平成 29 年 12 月 16 日 17 : 20 ~

内容 : 各大学等学生によるものづくり等のプレゼンテーション



受講生のプレゼン



受講生のプレゼン

○【講義・見学】

場 所 大分県由布市 日本文理大学湯布院研修所、

日 時 平成 29 年 12 月 17 日 8 : 00 ~

内容 : 「大分地域の木造建築案内」井上正文 (日本文理大学 教授)



講義の様子



○【講義・見学】

場 所 文学の森 碧雲荘、COMICO ART MUSEUM、亀の井別荘、湯布院ツーリストインフォメーションセンター

日 時 平成 29 年 12 月 17 日 9 : 00 ~

内 容 : 湯布院地域の木造建築見学



碧雲荘園見学



COMICO ART MUSEUM 見学



亀の井別荘内の耐震改修された古民家の見学



湯布院ツーリストインフォメーション建設現場見学

### (3) 木材・木造建築に係る連続講座の今後に向けて

各地域での連続講座では次のような意見が挙げられた。

#### (北海道)

体系的でバランスの取れた発信ができるプログラムを組むことができた。また、2年連続で実施することによって、北海道地区の公的研究機関と大学建築学科との連携を強めることができていると共に、本事業への森林事業者や加工事業者の理解・協力の機運も高まってきており、これらの連携を強固にし、拡大するためにも今後も継続的に開催することが望まれる。

昨年同様、長い移動時間も活用しての講義と安全管理を含む諸注意事項の徹底、実施日をもっと早めに確定し、早くに学生へ周知できるようにしなければならないなどの課題がある。

#### (東北)

公共空間、中大規模建築において、住宅とは異なるレベルの構造性能、防耐火性能を主とした安全性を確保していくことを考えたセミナープログラムであった。

これらの内容からテーマとした、“木を活用した新たな空間の可能性を探る”ことはできたように思われるが、今回はその一端に触れたに過ぎない。今後、自らの“学び”を進めて、その課題に対処できる新たな木材・木造建築の担い手となってもらいたいと考える。

#### (関東)

大学の講義の中では、どうしても深く踏み込んで学ぶことができない木造建築について、同じ木造という分野に興味を持つ、建築系、農学系といった異分野の学生が集まり、ともに連続講義を受けることで、異なる視点を持った学生同士の交流になり、学生間では刺激になる部分が多かったと思う。例年に比べ参加人数が少なかったが、そのうちの7割以上の受講生が講義の2/3以上の出席をしており、やる気のある学生が増加したように感じた。今後は、受講生がより集まるように広報に力を入れ、多くの学生が受講できる環境づくりが必要だと感じた。

#### (東海)

講義にとどまらず、要所に実習を取り入れることにより、講義で学んだ知識の理解を深め、内容の定着と木造建築界への向学心を高めることに繋がった。今回参加した学生は様々な専攻からの参加であり、広い知識と深い考察力をもった今後の、木造建築界の発展の重要な役割を担うような人材になることを期待できる。今後の課題としては、現状の大学カリキュラム、就職活動などを含む学生自身の多忙さなどを越えて、このような教育プログラムへの参加者が増加するよう、学生たちの需要に即したプログラムを検討する必要がある。

#### (近畿)

林学、林産および建築のバランスを考えながら、座学と実習・見学をセットにしたプログラムとし、普段の大学での講義カリキュラムではなかなか教えられないことを意欲的な学生に対して提供できたことで、今後の学生の成長に期待できる講座であったのではないかと考えている。各回とも

参加学生は意欲的に講義や実習に取組み、木材や木造建築の現状と課題について一層の興味がわいたようである。一方で、参加者は建築系の学生が中心であったこと、現代建築への講義や見学の機会が設けられなかったことが課題である。

(中国)

今回、はじめて中国地区で担い手事業の連続講座を実施した。参加者は13名であり、多少少ない人数となってしまったが、学生と講師陣に親近感のある講座となった。木造建築を多面的に考えることができた、木造建築への興味が深まった、他大学や講師との交流ができたなどの意見があがり、費用は高いとする学生もいたが、おおむね適正とのことであった。次年度も、参加したいという意見が多い。

(九州)

本セミナーの受講が木造に興味を持つきっかけとなった受講生は多く、本事業の狙いがある程度、果たされた。これまで九州地区セミナーのうち、最多の参加者(56名)となり、運営に困難があったが、受講生や各大学の引率の教員からも来年の実施への強い希望が示された。今後に向けて、セミナー運営方法の改善、受講生数のさらなる増加方策及びセミナー内容の一層の充実が課題と考えられる。

### 3-3.木を活かす学生課題コンペティション

木造建築物・工作物の提案、木質化した空間に係る提案、木を活かした製作物・材料等の提案、木を活かす取組・活動についての報告等、木の良さ等を活かした提案、取組・活動の報告を広く募集し、木材の利活用等に貢献する優秀な提案を表彰した。

木材の利活用が、二酸化炭素の排出削減など、今後の環境面における重要な役割を担うことを理解した上で作成している提案及び活動報告等のうち、下記のいずれかの内容を満たすものを選定した。

- ・木材の性質や特質をとらえ、活用しているもの
- ・建築物の木造化、木質化に新たな提案をしているもの
- ・木材の利用を通じて、豊かな暮らしや社会を実現するもの
- ・木材の生産体制や森林資源の保全に寄与するもの
- ・木材の利用による持続可能な社会の実現に寄与する取り組みがあるもの

本事業の内容は、「木材・木造建築に係る連続講座委員会」において検討し、応募作品は「木を活かす学生課題コンペティション審査委員会」にて審査を行った。

#### (1) 木を活かす学生課題コンペティション審査委員会

開催日時：平成 30 年 2 月 6 日

開催場所：木を活かす建築推進協議会 会議室

選考方法：①1 時間程度で部門ごとに良案を 2～3 点選択、②上記作品から各賞を協議の上選定することとし、林野庁長官賞 1 点、木を活かす学生課題大賞 1 点、部門賞 4 点、審査員特別賞（上記入賞作品以外に良案を審査委員会で選定）を選定する方法とした。

応募作品：今年度は木造建築物・工作物部門 5 点、ものづくり部門 5 点、木質化空間部門 4 点、木を活かす活動部門 6 点、合計 20 点の応募があった。

1. 応募予定部門	受付番号	作品名	2. 応募者情報 (代表者)	人数	学校名	専攻学科名
木造建築物・工作物部門	1046	Yukizuru Basc ~ 樹木とその周りの遊びを促す仕掛け ~	松尾 憲佑	1	福井工業大学	デザイン学科
	1049	Plant Plant Plant	田中 俊平	25	東京造形大学	デザイン学科
	1050	街路樹の呼吸を感じるバス停	有田 仁美	1	九州職業能力開発大学校	建築科
	1053	大きな木-秋田杉のシェアハウス-	八島 咲子	2	秋田県立大学	建築環境システム学科
	1055	糸島ダーチャ	酒井 優衣	6	九州産業大学	住居・インテリア設計学科
ものづくり部門	1034	二畳の茶室 幻曲庵	木戸口 美幸	9	広島大学大学院	工学研究科
	1043	木から成る表彰式	松田 芳輝	1	秋田県立大学	建築環境システム学科
	1044	未利用木材を用いたWin-Win材の開発とベンチへの応用	関田 一樹	6	日本大学	機械工学科
	1045	つたう模路	播戸 歩沙	1	福井工業大学	デザイン学科
	1052	add-bench	長谷川 駿	14	摂南大学	建築学科
木質化空間部門	1035	木を活かす～住まいのあり方。思いを受け継ぎ次世代へ伝え続ける～	結城 智裕	1	山形工科短期大学校	住居システム系住居環境科
	1041	故きを温ねて新しきを知る-忘れ去られる街並み、伝統木造の継承-	小金澤 将運	1	工学院大学	建築デザイン
	1047	記憶～朝倉への思いと私たちのこれから～	本田 祐基	4	福岡大学	建築学科
	1054	きのあう街	大吉 真由	1	崇城大学	建設システム開発工学専攻
木を活かす活動部門	1033	ほたる荘-かやぶき古民家保全活用プロジェクト-	富田 直樹	15	広島大学	工学部第四類(建設・環境系)
	1036	加子母内木家山守資料館-東濃ひのきを全国に発信するための拠点整備-	境 将司	7	名古屋工業大学大学院	社会学専攻
	1038	3Dプリンタで木製家具製作	渡邊 麟	8	日本理科大学	工学部 建築学科
	1042	地域活性化を担うものづくり	小濱 光時	14	熊本県立大学	環境共生学部
	1048	Tree house Project	高橋 瑞	25	秋田県立大学	建築環境システム学科
	1051	あつまるま	宮奥 森伍	19	京都府立大学	環境デザイン学科

## (2) 受賞作品

### ①作品一覧

厳正なる審査の結果、以下の作品が入選した。

賞	応募部門	受付番号	作品名	応募者情報 (代表者)	人数	学校名	講評担当
林野庁 長官賞	木を活かす活動 部門	1033	ほたる荘-かやぶき古民家保 全活動プロジェクト-	富田 直樹	15	広島大学	飯島
木を活 かす学 生活動 大賞	木を活かす活動 部門	1042	地域活性化を担う物づくり	小濱 光時	14	熊本県立大 学	井上
	木を活かす活動 部門	1048	Tree house Project	高橋 瑞	25	秋田県立大 学	山崎
	木を活かす活動 部門	1051	あつまるま	宮奥 森伍	19	京都府立大 学	加来
部門賞	木造建築物・工 作物部門	1049	Plant Plant Plant	田中 俊平	1	東京造形大 学	大橋
	ものづくり部門	1034	二畳の茶室 幻曲庵	木戸口 美幸	9	広島大学大 学院	板垣
	木質化空間部門	該当なし					
	木を活かす活動 部門	該当なし					

### ②講評

#### 1) 林野庁長官賞 木を活かす活動部門

作品名：ほたる荘-かやぶき古民家保全活用プロジェクト-

受賞者：ほたる荘-かやぶき古民家の担  
い手たち-

(講評)

本年度は「木を活かす活動部門」への応募  
作品に優秀なものが多かった。

なかでもこの「ほたる荘保全活用プロジェ  
クト」は事業の目的と経過および成果が簡  
潔に述べられており、審査員が一致して最  
優秀なものとした作品である。



2) 木を活かす学生生活活動大賞 木を活かす活動部門

作品名：地域活性化を担うものづくり

受賞者：熊本県立大学ものづくり工房

(講評)

人口減少が著しい熊本県五木村での地元産木材による木製品を核とした地域活性化の取組である。熊本県立大学学生を中心に、五木村での民・官・学の連携が構築されている点は高く評価できる。「熊本県立大学ものづくり工房」と「五木村ものづくり工房」と連携体制も本取組の特徴である。また、学生の創意工夫による商品開発や素材調達から商品販売までの流通システムの構築も高く評価できる。今後の本取組の継続的進展を期待したい。



3) 木を活かす学生生活活動大賞 木を活かす活動部門

作品名：Tree house Project

受賞者：Tree house Project

(講評)

10年以上前に学生の夢が地域の実務家と出会ったことから始まったプロジェクトである。活動を通じて、継続的に建築の観点から「現場」、木材の観点から「生産」や「材料特性」を学び、さらに建築物が地域や世代に持つ責任と可能性、森林という自然環境が有する豊かさと脅威にまで活動の意識が深く豊かに広がり続けている。活動者の楽しさを重要な基盤としつつ、社会的な貢献性も高く、非常に優れた活動である。私も一度「ツリーハウス」を訪ね、皆さんと未来を語り合ってみたく感じている。



4) 木を活かす学生生活活動大賞 木を活かす活動部門

作品名：あつまるま

受賞者：美山木匠塾

(講評)

ハコ1ユニットとイス8ユニットから造られた移動可能な茶室である。おそらく2畳茶室から始まり、食事空間やミニステージと観客席などの用途を広げたものと見える。基本となる各ユニットが30×30、30×60、30×150の3種類のみで構成されている点、組立には嵌合接続を使い、金物などを使用していないことが評価できる。

木材利用として、なぜ、間伐材を利用したこの断面材が温暖化防止に有効であるのか、説明があると良かった。現地調査から中山間部に入り、地域の方との交流の中で、人が集まる場を現地で作り上げたことは、木を活かす活動大賞にふさわしい。



5) 部門賞 木造建築物・工作物部門

作品名：Plant Plant Plant

受賞者：田中 俊平

(講評)

この建物は、工場地帯に立地し「周辺工場から排出される『訳あり商品』の直売所」で、地下に植物工場を有するらしい。「自然の神である『龍』をモチーフとした」とのことで、その思いは存分に形態に実現され、ダイナミックな形態が作られている。廃棄される訳あり商品に対して「怒る龍」なら、用途は廃棄物処理センターでもよかったかもしれない。ただ、ドラゴンボールなどのアニメで登場人物が脱兎の如く登場してくる場面、を想起するのは私だけであろうか。

解説が分かりにくいのは、「思いが強い」のと字数が限られているためとおおめにしたい。しかし、模型写真ばかりで構成され、平面プランその他の情報が乏しいのが残念である。



6) 部門賞 ものづくり部門

作品名：二畳の茶室 幻曲庵

受賞者：広島大学大学院 設計研+意匠研

(講評)

伝統的な“和”のデザインである縦・横の格子を“ねじれ”させることによって、伝統と現代、和と洋を融合した「茶室空間の新しい可能性」を表せていると思います。細い木の連続は、清澄で儂い様子をイメージさせると共に、自然との境界を消して調和していく姿にも思えます。ねじれた曲面は HP シェル (Hyperbolic Paraboloid Shell) の要素でもあり、かたちによる構造の可能性も秘めています。2008 年から続くこのプロジェクトが更に進化し、新たな木の空間の発展につながっていくことを期待します。





### 3-4.木材・木造建築に係る連続講座 全国発表会

木材・木造建築に係る連続講座事業の成果報告会と、木を活かす学生課題コンペティションの表彰式を同時に開催した。



成果報告会の様子 1



成果報告会の様子 2



表彰式の様子 1



表彰式の様子 2

#### (1) 開催日時・場所

開催日時：平成 30 年 3 月 13 日 13 : 00～17 : 00

開催場所：東京木材問屋経堂組合 木材会館

#### (2) 開催プログラム

##### I. 各地区発表

- ① 北海道地区 北海学園大学
- ② 東北地区 秋田県立大学
- ③ 関東地区 東京都市大学
- ④ 東海地区 名古屋大学
- ⑤ 近畿地区 近畿大学
- ⑥ 中国地区 広島大学
- ⑦ 九州地区 日本文理大学

## Ⅱ. 木を活かす学生課題コンペティション表彰式・受賞者発表

### ①部門賞 2 作品

ものづくり部門	二畳の茶室幻曲庵	広島大学大学院 設計研+意匠研
		代表：木戸口 美幸
木造建築物・工 作物部門	Plant Plant Plant	受賞者：田中 俊平

### ②木を活かす学生課題大賞 3 作品

木を活かす活動 部門	あつまるま	美山木匠塾
		代表：宮奥 森伍
	Tree house Project	Tree house Project
		代表：高橋 瑞
	地域活性化を担うも のづくり	熊本県立大学ものづくり工房
		代表：小濱 光時

### ③林野庁長官賞 1 作品

木を活かす活動 部門	ほたる荘-かやぶき 古民家保全活用プロ ジェクト-	ほたる荘-かやぶき古民家の担い手たち- 代表：富田 直樹
---------------	---------------------------------	---------------------------------